

基礎研 レポート

「ニッポンの結婚適齢期」 男女の年齢・徹底解剖（2） —2018年婚姻届全件分析（再婚男性編）—

生活研究部 人口動態シニアリサーチャー 天野 馨南子
(03)3512-1878 amano@nli-research.co.jp

はじめに

全国での講演会において「衝撃だった」という反響が非常に多かった日本の結婚適齢期データについてのレポート、今回はシリーズ第2弾となる。[第1弾](#)では、一般的な思い込みと統計的な事実との間の乖離が最も大きいと感じることの多い「初婚男性の結婚適齢期」について、婚姻届全件のデータ解析の結果を紹介した。

第2弾は「再婚男性」の結婚年齢に焦点をあて、結婚（再婚）適齢期を考えてみたい。

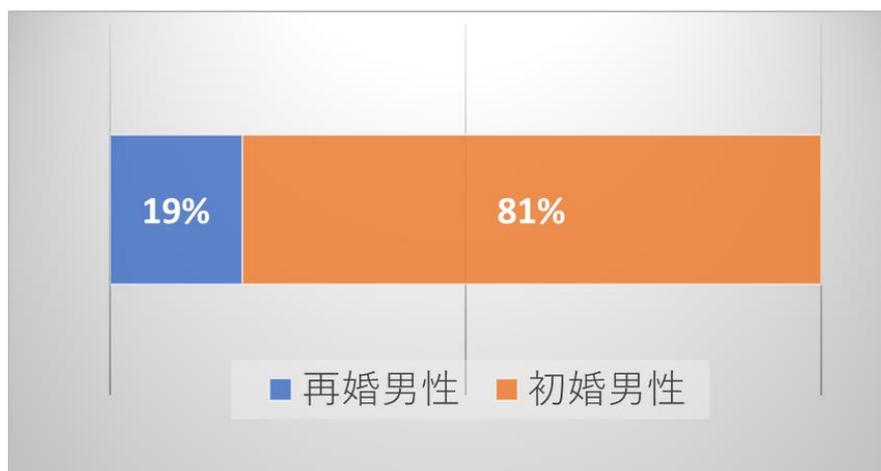
前回と同じく、データソースには、厚生労働省「人口動態調査」に掲載されている、2018年における婚姻届の集計結果を用いているため、ニッポンの結婚、についての全数分析結果である。

1—1 男性の再婚割合と妻の婚歴は

シリーズ第1弾にて、全婚姻に占める再婚者を含む婚姻（どちらかが再婚、双方が再婚を含む）の割合は、4組に1組であることを示した。これを今度は、男性のみの婚姻という視点からみると、全婚姻に占める初婚男性の婚姻は、37万1093件81%、再婚男性の婚姻は8万5055件19%となり、男性に関してだけでいうならば、再婚の割合は5組に1組程度、という状況である（図表1）。

総数において再婚者が占める4組に1組という割合から、「再婚もまあまあ珍しくはなくなった」と感じる度合いよりも、男性に関しては5組に1組程度となるため、再婚者全体と比べるとそこまで楽ではない（もう少し厳しい）ということが指摘できる。

【図表 1】 2018 年 男性の初婚、再婚の件数割合（％）

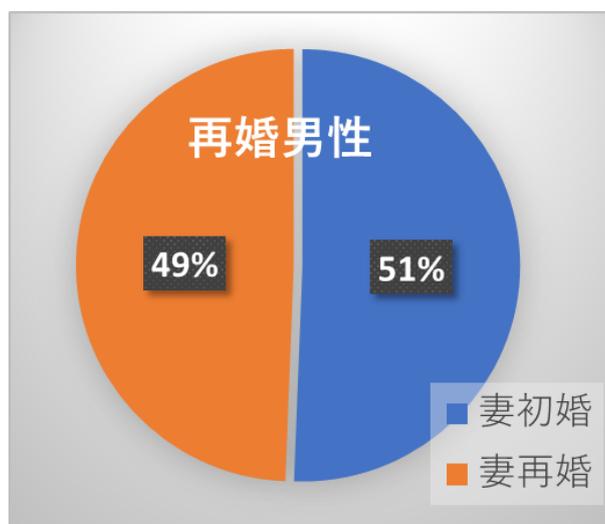


資料) 厚生労働省「人口動態調査」2018 年より筆者作成

次に、再婚男性の妻の婚歴について、初婚・再婚の割合で確認してみたい。

再婚男性の婚姻 8 万 5055 件のうち、妻が初婚は 4 万 3051 件の 51%、妻が再婚は 4 万 2004 件の 49% となっている（図表 2）。

【図表 2】 2018 年 再婚男性 8 万 5 055 人の妻の初婚・再婚の割合



資料) 厚生労働省「人口動態調査」2018 年より筆者作成

再婚男性の妻の婚歴は、ありとなしでほぼ半々、という状況である。

初婚男性の再婚女性との結婚割合が 8.4% である状況と比べると、再婚男性の結婚に関しては、相手の女性の婚歴に強くはこだわらない姿勢が見てとれる。

2—男性の「再婚適齢期」も明確

これまで、再婚にあえて注目した適齢期分析はなされてこなかったといつてよい。再婚者にも焦点をあてた今回の分析からは、男性の結婚の1/5を占める再婚男性にも、やはり初婚男性と同様、明確な適齢期が存在することが見えてくる。

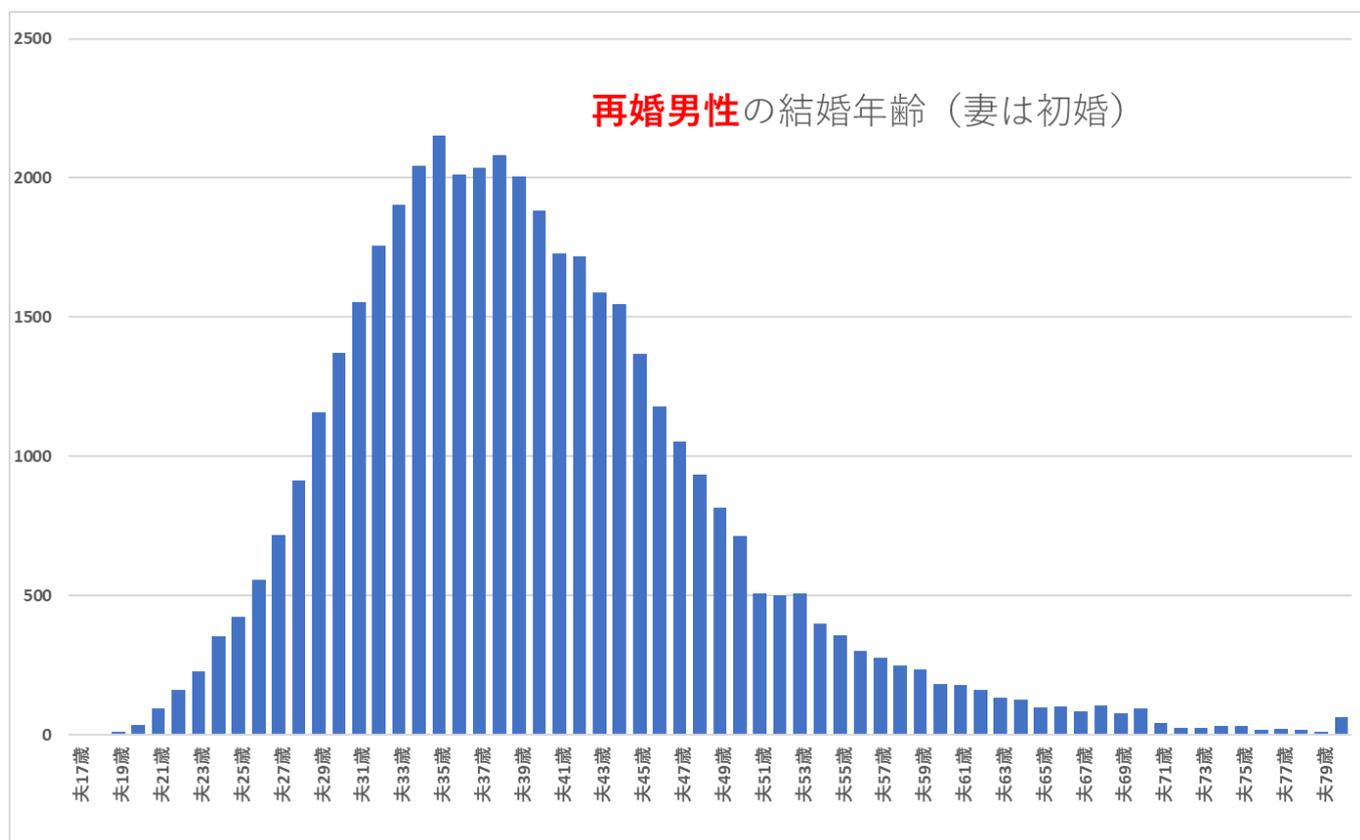
まず、再婚男性の結婚の半数を占める初婚女性との結婚から見ていきたい（図表3）。

最頻値は35歳で、初婚男性のピークよりも6歳上昇する。該当する婚姻の婚姻届の過半数が提出される年齢を適齢期とするならば、再婚男性の初婚女性との結婚適齢期は38歳、ということになる。

また、婚姻届の7割が提出される年齢は43歳、8割が提出される年齢は46歳であるため、婚歴のある男性が初婚女性との成婚を望んでいる場合、40代後半以降は厳しい状況となる、といえる。また52歳で9割に達するため、50代での初婚女性との再婚に対して安易な期待をもつことは極めて厳しい状況である。

件数分布グラフからは、29歳が適齢期（[シリーズ\(1\)](#)参照）の初婚男性よりも9歳（=38歳-29歳）の適齢期のモラトリアムがあることが示されているものの、30代後半をピークに左右に急角度の綺麗な三角が形成されていることから、ピーク年齢を過ぎてものんびりと再婚に対して構えることは、相手を初婚女性に限定するのであれば、成婚を難しくすることに注意が必要である。

【図表3】再婚男性の結婚年齢／妻も初婚のケース（件）



	件数	累計件数	累計割合		件数	累計件数	累計割合
夫19歳	10	10	0.0%	夫40歳	1,884	25446	59.1%
夫20歳	34	44	0.1%	夫41歳	1,730	27176	63.1%
夫21歳	93	137	0.3%	夫42歳	1,717	28893	67.1%
夫22歳	160	297	0.7%	夫43歳	1,587	30480	70.8%
夫23歳	227	524	1.2%	夫44歳	1,548	32028	74.4%
夫24歳	352	876	2.0%	夫45歳	1,367	33395	77.6%
夫25歳	422	1298	3.0%	夫46歳	1,180	34575	80.3%
夫26歳	558	1856	4.3%	夫47歳	1,055	35630	82.8%
夫27歳	718	2574	6.0%	夫48歳	933	36563	84.9%
夫28歳	913	3487	8.1%	夫49歳	817	37380	86.8%
夫29歳	1,160	4647	10.8%	夫50歳	714	38094	88.5%
夫30歳	1,370	6017	14.0%	夫51歳	508	38602	89.7%
夫31歳	1,555	7572	17.6%	夫52歳	501	39103	90.8%
夫32歳	1,756	9328	21.7%	夫53歳	506	39609	92.0%
夫33歳	1,904	11232	26.1%	夫54歳	399	40008	92.9%
夫34歳	2,043	13275	30.8%	夫55歳	356	40364	93.8%
夫35歳	2,151	15426	35.8%	夫56歳	301	40665	94.5%
夫36歳	2,012	17438	40.5%	夫57歳	278	40943	95.1%
夫37歳	2,037	19475	45.2%	夫58歳	247	41190	95.7%
夫38歳	2,082	21557	50.1%	夫59歳	236	41426	96.2%
夫39歳	2,005	23562	54.7%	夫60歳	181	41607	96.6%

資料) 厚生労働省「人口動態調査」2018年より筆者作成

3—再婚女性との結婚は年齢上昇の障壁を引き下げる効果大

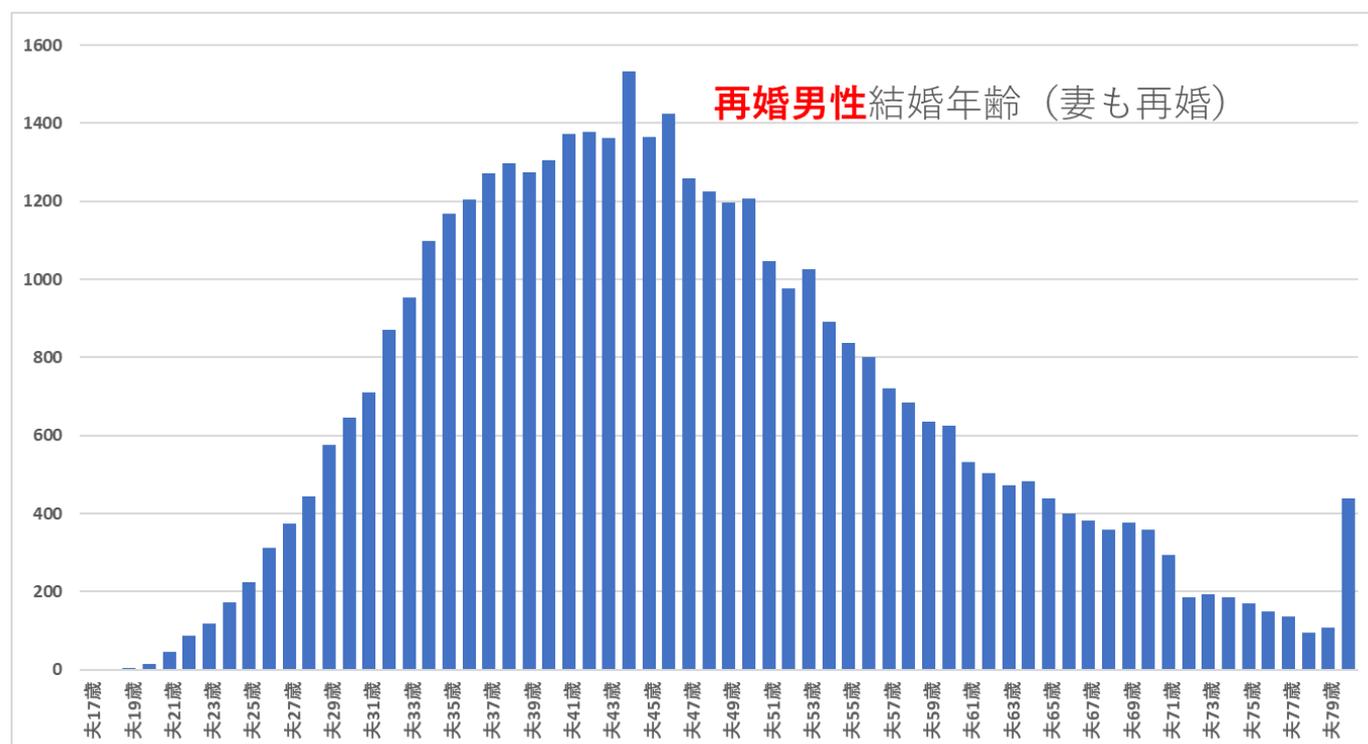
再婚男性が初婚女性との結婚を望む場合は、初婚男性よりも9年の適齢期モラトリアムがあることを示した。しかし、適齢期である38歳までに、結婚・離婚というプロセスを経てからの再婚を目指す、という状況を考えてみると、あまり悠長に構えられる話ではないといえる。実際、筆者が出会った非常に幸せな再婚を果たしたある地方の男性も、ピーク前の36歳で30歳の初婚の妻を得る、というスピード感のある結婚であったことを思い出す。

しかし、再婚男性が再婚女性との成婚を目指すケースにおいては、適齢期のモラトリアムがかなり延長されることが分析結果で示されているので、紹介しておきたい。

再婚男性の半数を占める再婚女性との結婚について、その発生年齢を見てみると、最頻値は44歳となる（図表4-1）。再婚同士の婚姻件数が5割を超える男性の年齢は45歳であることから、再婚男性が初婚女性との結婚を目指す場合よりも、再婚女性との結婚適齢期は7歳（＝45歳－38歳）延長する。

また、再婚者同士の婚姻が7割を超える男性の年齢は52歳、8割を超える年齢は57歳にまで上昇するため、少なくとも50歳過ぎあたりまでは、成婚への道は一定程度開かれている、といってよい状況といえる。婚姻届が9割に達する年齢が還暦を過ぎた65歳であることから、初婚男性や、初婚女性との成婚を目指す再婚男性に比べれば、長期戦が可能、という結果も示された。

【図表4-1】再婚男性の結婚年齢／妻も再婚のケース（件）



	件数	累計件数	累計割合		件数	累計件数	累計割合
夫19歳	4	4	0.0%	夫45歳	1,365	21189	50.4%
夫20歳	16	20	0.0%	夫46歳	1,425	22614	53.8%
夫21歳	46	66	0.2%	夫47歳	1,260	23874	56.8%
夫22歳	88	154	0.4%	夫48歳	1,224	25098	59.8%
夫23歳	119	273	0.6%	夫49歳	1,196	26294	62.6%
夫24歳	172	445	1.1%	夫50歳	1,207	27501	65.5%
夫25歳	224	669	1.6%	夫51歳	1,047	28548	68.0%
夫26歳	312	981	2.3%	夫52歳	977	29525	70.3%
夫27歳	375	1356	3.2%	夫53歳	1,026	30551	72.7%
夫28歳	443	1799	4.3%	夫54歳	891	31442	74.9%
夫29歳	575	2374	5.7%	夫55歳	838	32280	76.8%
夫30歳	647	3021	7.2%	夫56歳	800	33080	78.8%
夫31歳	711	3732	8.9%	夫57歳	720	33800	80.5%
夫32歳	871	4603	11.0%	夫58歳	684	34484	82.1%
夫33歳	954	5557	13.2%	夫59歳	636	35120	83.6%
夫34歳	1,099	6656	15.8%	夫60歳	626	35746	85.1%
夫35歳	1,168	7824	18.6%	夫61歳	531	36277	86.4%
夫36歳	1,204	9028	21.5%	夫62歳	503	36780	87.6%
夫37歳	1,272	10300	24.5%	夫63歳	472	37252	88.7%
夫38歳	1,297	11597	27.6%	夫64歳	484	37736	89.8%
夫39歳	1,274	12871	30.6%	夫65歳	438	38174	90.9%
夫40歳	1,305	14176	33.7%	夫66歳	401	38575	91.8%
夫41歳	1,373	15549	37.0%	夫67歳	381	38956	92.7%
夫42歳	1,379	16928	40.3%	夫68歳	359	39315	93.6%
夫43歳	1,363	18291	43.5%	夫69歳	376	39691	94.5%
夫44歳	1,533	19824	47.2%	夫70歳	358	40049	95.3%

資料) 厚生労働省「人口動態調査」2018年より筆者作成¹

以上から、再婚を目指す男性が、初婚女性との結婚を考える場合と、再婚女性との結婚を考える場合では、かなりの「適齢期の差」が出ることを示されている。

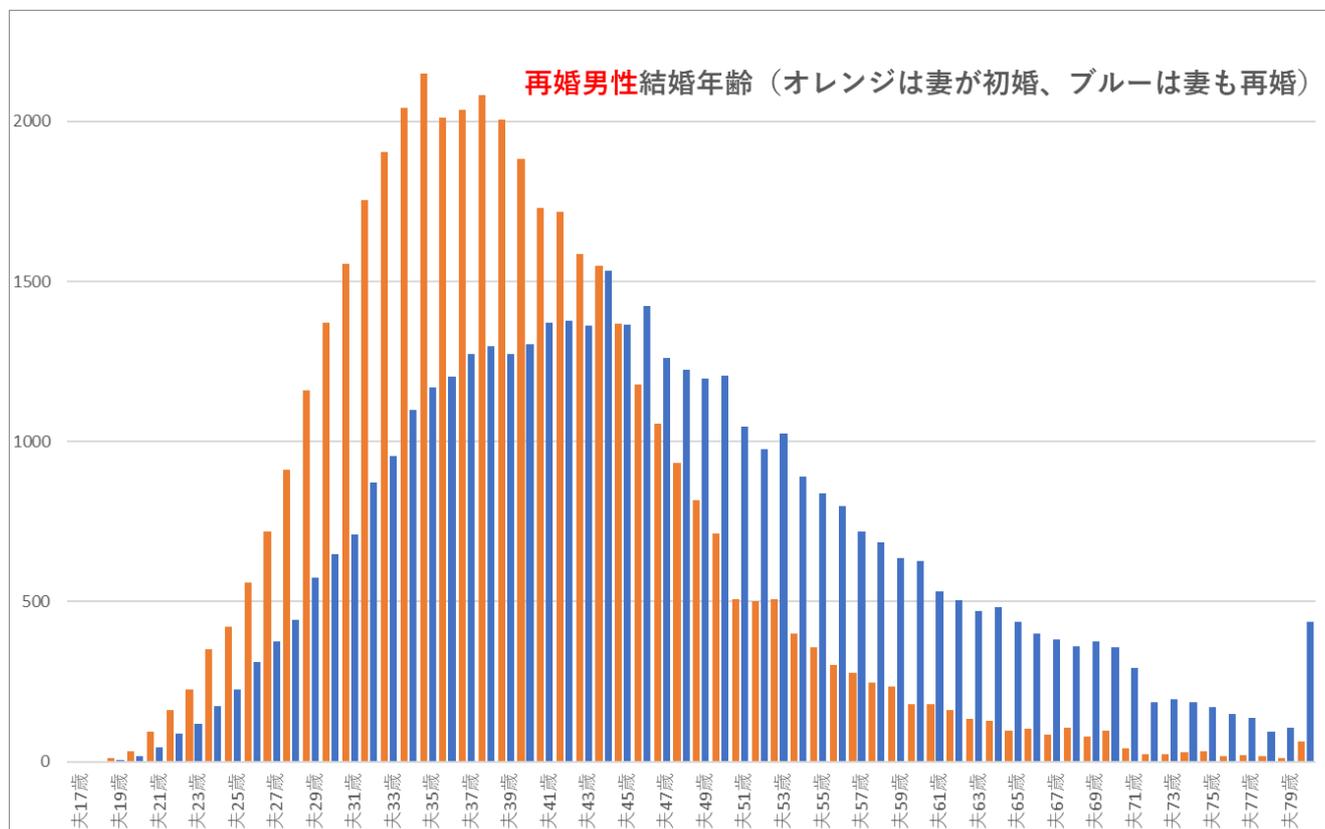
ここで念のため、相手が初婚女性と再婚女性、双方の婚姻の発生時期が比較可能なグラフを最後に示しておきたい(図表4-2)。

初婚女性との結婚は、グラフ上で底辺の短い角度のついた高い山をみせており、再婚を望む男性に

¹ 72歳以降は1歳あたり200件を、76歳以降は1歳あたり150件を切って婚姻数が徐々に減少していくが、政府統計では80歳以上がまとめて集計されており、80歳以上は累計438件となっている。棒グラフ上は高さがやや目立つものの、90歳までと仮定して、1歳あたり平均40件程度と考えると件数通減の域を外れているとまではいえない。

としては適齢期となる 38 歳を相当意識した活動が必要であり、40 代後半からは厳しくなる、ということが示される。一方、再婚女性との結婚は底辺の広い緩やかな山が描かれており、50 歳を過ぎてからも年々厳しくはなるものの、成婚活動が報われる可能性がある、という適齢期モラトリアムの明確な差をはっきりと読みみることが可能である。

【図表 4-2】再婚男性の結婚年齢／妻が再婚＋初婚合算のケース（件）



資料) 厚生労働省「人口動態調査」2018 年より筆者作成

4—成婚を希望する男性が留意すべきこと

36歳で30歳の初婚女性との結婚を果たした地方の再婚男性の例を先に挙げたが、彼は結婚相談所のマッチングデータ利用において、相手の女性の条件をたった1つだけに絞っていた。

彼の言葉で非常に印象的だったのは、「婚歴のある自分でも良い、と言ってくれる女性に絞りました」であった。

結果的に彼は6歳年下の初婚女性と結婚したのだが、初婚女性にこだわった相手探しをしたわけではなかったのである。

自分の過去をそのままに受け止めてくれる相手、であることが、彼が相手の女性に求めた唯一の条件であった。

初婚男性、再婚男性の結婚適齢期の解析結果を2回にわたって説明してきたが、初婚男性であれば、自分と離れた年齢の相手を求めない、再婚男性であれば、相手の婚歴にこだわらない、といった行動が成婚への鍵となることが示唆されている。

結婚から、望む幸せを与えられるイメージをもつよりも、ともに話し合いながら、2人だからこそもつことができる新たな視点で幸せを築きあげていくイメージをもつ、ということが、幸せな出会いへの近道になる、ということかもしれない。

【参考文献一覧】

厚生労働省. 「人口動態統計」

天野 馨南子. [「ニッポンの結婚適齢期」男女の年齢・徹底解剖 \(1\) —2018年婚姻届全件分析 \(初婚男性編\) —](#). ニッセイ基礎研究所「基礎研レポート」2020年11月16日

天野 馨南子. [「年の差婚」の希望と現実—未婚化・少子化社会データ検証—データが示す「年の差婚の希望の叶い方」](#). ニッセイ基礎研究所「研究員の眼」2017年2月20日

天野 馨南子. [初婚・再婚別にみた「年の差婚の今」\(上\) —未婚少子化データ考— 平成ニッポンの夫婦の姿](#). ニッセイ基礎研究所「基礎研レポート」2018年5月14日

天野 馨南子. 初婚・再婚別にみた「年の差婚の今」(下) —未婚少子化データ考—変わり行く2人のカタチ. ニッセイ基礎研究所「基礎研レポート」2018年5月28日